



Series
医学部受験対談

受験生の親が語る
医学部
合格体験

— 医師として、母親として、3人兄弟を全員医学部に合格させる。 —
最も大切なことは、干渉し過ぎず、見放さず、本人が受験に取り組む姿勢を保てるように、しつかりと見守つてあげることだと思います。

医療法人社団けんき会 あゆみクリニック院長の藤川万規子氏は、医師としての日々の仕事と母親としての子育てに追われる中で、長男を東邦大学医学部に合格、次男を東京医科大学に現役合格、三男を順天堂大学医学部に現役合格させた。多くの親から子育てや医学部受験のアドバイスを求められ、その子育て体験を著書としても出版されています。この対談では、長男の藤川鳳声さんの医学部受験を振り返って頂きました。

母親の仕事を見て育った
子どもたち

田村 藤川さんは、3人の息子さん全員を医学部に入学させておられます。また、お子様の子育てと医学部受験の体験を、それぞれ著書として出版もされています。

3人のお子様を全員医学部に入学させるということは大変なことだと思われております。

お子様にはどのような教育をなされたのでしょうか。

藤川氏 有難うございます。でも私は、子供たちが小さい頃から、将来は医師になつて欲しいとか、そのため勉強をしなさいとか言つたことは一切ありませんでした。

兄弟3人が自ら「医師になりたい」と決めて挑戦した結果でした。

田村 凰声さんは、医学部を目指した動機とは、お母さまが医師だったということと、そのお母さまを見て医師はやりがいのある仕事だと思つたから、医学部を目指したと言

われていました。

藤川氏 私の父親は開業医でした。子どものころから褒められて伸び伸びと育てられました。私も父から医師になつて欲しいと言われたことはあります。

父は常日頃、子供の前では、医者の仕事はやりがいがある仕事だと話して

いて、いつも楽しく仕事をしていまし

た。そんな姿を見ていて、子どもたちから父を尊敬していた私は、将来は

医師を目指したいと思うようになりました。

ですから私も子供達にはそれの将来は自分で選ばせるように考えていました。

田村 親御様が自らの仕事に対する姿勢や考え方、その仕事ぶりをお子様に見せるということはとても大切なことですね。お子様にとって一番大きな動機付けになると思います。

藤川氏 私もそのように思います。医学部に進んだ現在も、3人の子供達には、将来は私の後を継いで欲しいとも言つていません。それぞれが自分



田村 和香氏
メデュカバス 校長 英語講師

東京女子大学文理学部英米文学科卒、元両国予備校講師
受験予備校の講師歴24年間のうち14年間を両国予備校の講師として、偏差値50前後で入学した受験生を、それぞれの志望大学に多数合格させてきた。受験生をより良き方向へと導くことを一生の仕事として、受験指導に情熱を注いでいる。

く事務の人たちまで、生徒に関わる人たち全ての人達の面倒見がとても良くて、自分にとって、とても良い環境で予備校生活を過ごせたと、お聞きしました。

藤川氏 今でもとても感謝していますね。

医学部予備校でも、先生たちとの信

頼関係や、そこでの友達関係は大切で、良い先生や良い友達との出会いが人間形成に大きく影響を及ぼすと思います。

鳳声は、人間関係や周囲をじっと洞察するタイプで、思慮深い性格です。どちらかと言えば人に優しすぎるくらいで、人間関係をとても大切にしています。

ですから先生や仲間だけでなく、食

事を作ってくれるスタッフさんたちとも親しくなつていています。

鳳声にとつての課題だった、持久力とここ一番での瞬発力が身に付いたのも、メデュカバスで先生との信頼関係と周囲との良好な人間関係の中で学べたことによる影響が大きかったと思いません。

藤川氏 実は私も現役の時に、当時の

両国予備校でお世話になりました。

当時から少人数で、学力に合わせて基礎の積み重ねを大切にしてくれる予備校でした。

私は通学生でしたが、寮生の方から見かける生徒さんでした。

特に数学の先生が大好きで、勉強の相談だけでなく、隣に座って楽しそうに雑談している姿を良く目にしました。

校内では、親切で面倒見が良く、多くの友達から慕わっていました。人に

教えてあげることがとても上手な生徒さんだったことも強く印象に残っています。

両国予備校の伝統を受け継ぐ メデュカバスには、多くの卒業した生徒さんが、帰ってきます。

教えてあげることがとても上手な生徒さんだったことも強く印象に残っています。



藤川 万規子氏(母親)

医療法人社団げんき会 あゆみクリニック院長

経歴：東邦大学医学部卒業。都内の民間病院にて内科外来及び勤務医を経て、2000年にあゆみクリニックを開業し現在に至る。

これまで15年間で1万人以上の子どもを診察してきた。

園医としても活躍し、子どもたちに「命の大切さ」を伝える授業や講演活動なども行っている。

日々仕事と子育てに追われる毎日の中、3人の息子たちを育て上げ、医学部へと進学させる。医師、そして母親の立場からの親身なアドバイスは反響を呼び、遠方からも訪れる人が後を絶たない。

著書に、「団子3兄弟を育てた女医の医学部合格奮闘記」、「手抜きでもぐんぐん伸びる男の子の育て方」三笠書房(2016/2/26)がある。



の在庫の問い合わせなどのお電話を頂くことがあります。
いまだに卒業生や寮生同士の繋がりも強いようです。
ご父兄が両国予備校の卒業生という生徒さんも、毎年のように入学されています。

いろいろな人と交わり影響を受けることで子どもは育ちます。

田村 藤川さんは、『手抜きでもぐんぐん伸びる男の子の育て方』という著書を出されていますね。

藤川氏 はい。出版社から依頼があり、多くの方からのご相談にお応えしてきました内容を、3人の子育ての経験談として本にしました。

子育てで最も大切なのは、子どもが持っている才能や個性を、良い方向に

伸ばしてあげることだと思います。
私は、この子にはどんな才能があるのだろうか、自然と親しむ中でどんなことを感じ取ってくれるだろうかと、小さい頃からいろいろな体験をさせて、我が子の才能探しに力を入れました。
また、子育ては親だけがするものではないと思っています。子どもにとって親と接する時間だけが大切なのはありません。

私は子どもたちを生まれてすぐに保育園に預けました。いろいろな人と接触させ、いろいろな人から影響を受けることが、子供の成長には大切だと思ったからです。

そのおかげで子どもたちは、人見知りもしない、誰とでも友達になれる気質に育つてくれました。

親が干渉すると子供は萎縮してしま

大切なことは、干渉し過ぎず、見放さず、見守ることです。

田村 受験生を抱える親御さんに、メッセージをお願いします。

藤川氏 今回の医学部受験は、親子が心を共にして合格を目指さないと難しいと思います。親御さんも子供と一緒に合格を目指してほしいと思います。

最も大切なことは、干渉し過ぎず、見放さず、本人が受験に取り組む姿勢を持つてあげることだと思います。見守るとは、手伝いが必要な時にはしっかりと手伝うということです。

私は、子育てだけでなく、医学部受験生を抱えている親御さんからの相談を受けることもあります。私自身も風声が受験の時は、親戚の医学部受験の体験がとても参考になりました。やはり受験を乗り越えた人の話は大いに参考になると思います。

それと、困った時には、信頼できる予備校の先生に相談し、考え方や意見を聞くことが大切です。子どもを安心して任せることのできる、信頼できる予備校を選ぶことが重要なのです。

田村 本日は貴重なお話を頂き、誠にありがとうございました。

います。小児科医としても今までに1万人以上の子供達を診てきて、親の過干渉が子どもの自立を妨げ、なかなか離れができない姿を数多く見てきました。大切なのは干渉ではなく、常に子どもの環境を見守り手助けをすることだと思います。

両国予備校の伝統を受け継ぐ、全国で唯一の予備校

私立医学部受験予備校メデュカパス

お問い合わせ

TEL:03-5229-7088

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-23-8 第2三幸ビル
FAX : 03-5229-7089

<http://www.meduca-pass.org/>

医療法人社団げんき会 あゆみクリニック

内科(循環器・呼吸器・消化器・感染症)・糖尿病内科・脂質代謝内科・漢方内科・老年内科・女性内科・小児科・アレルギー科

健康相談・各種予防接種・訪問診療訪問看護応需

〒344-0023 埼玉県春日部市大枝400-4

TEL.048-731-3283

<http://www.ayumi-clinic.com/>